

看護実践能力習得度調査からみた教育評価

新潟医療福祉大学 健康科学部看護学科
 中山和美, 袖山悦子, 坪川麻樹子, 宇田優子, 島貫秀樹

【背景】

「看護実践能力」というキーワードは平成14年の「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」(文部科学省報告)を端緒に、修正拡大してきた。その集大成として平成23年春には「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会報告書」(文部科学省)の中で、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」を明示する運びとなった。そこで、現在のカリキュラムによって看護学生はどのような能力が身についたか実態を明らかにすることを目的に研究に着手した。

【方法】

A大学看護学科4年生(2期生)83名を対象に、卒業前の1月に研究の趣旨を説明し、研究協力への可否を同意書をもとに確認した。同意の得られた68名のデータのみを本研究で使用した。

調査票はWEB上に置き、背景で述べた平成23年10月に案として発表された看護実践能力5群、20能力、55到達目標に対し、「自信がない」「あまり自信がない」「まあ自信がある」「自信がある」の4段階でチェックを行った。

【結果】

「まあ自信がある」と「自信がある」と回答した学生が80%を超えた項目は11項目で最高は88.3%であった。最低は27.9%で、この項目を含め6割以下の項目が24項目あった。

<表1 到達目標と自信がある割合>

自信の割合	到達目標の項目
88.3%	対象と援助関係を形成できる
	自己の看護を振り返り、自己の課題に取り組む
86.8%	専門職として生涯にわたり学習成長し続ける
85.3%	専門性を発展させていく重要性を説明できる
	対象の意思決定を支援できる
	対象と援助的なコミュニケーションを展開できる
83.8%	尊厳・人権の意味を理解し擁護に向けた行動がとれる
82.3%	医療事故防止対策について理解し行動できる
	個人の生活を把握し健康状態をアセスメントできる
	多様な価値観をもつ人を尊重した行動ができる
80.9%	感染予防対策を理解し、必要な行動がとれる
...	... (中略) ...
45.6%	分析的方法を活用して計画的に看護計画を立案する
	健康増進に関連する政策と保健活動を説明できる
	急激な健康破綻患者のアセスメントと援助ができる
	精神的危機状況患者のアセスメントと援助ができる
	社会の変革と看護学を発展させる重要性を説明できる

44.1%	実践において理論的知識や先行研究の成果を活用できる
42.6%	健康指標を活用して地域の健康課題を把握する
	学校や職場の健康課題を把握する方法が説明できる
41.2%	慢性的健康課題をもつ人へ社会資源を説明できる
27.9%	グローバル化・国際化の中で看護のあり方を理解する

<用語の説明：5群で構成する看護実践能力>

- 1群: ヒューマンケアの基本に関する実践
- 2群: 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
- 3群:
- 4群: 学習環境とチーム体制整備に関する実践
- 5群: 専門職者として研鑽し続ける基本能力

【考察】

1. 自信がある割合が80%を超える「看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力」「実施する看護について説明し同意を得る能力」「援助的関係を形成する能力」「生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力」はおおよそ修得できたと言える。援助的人間関係論等の科目や数多くの実習を通して認識が高まった。しかし、理論を看護に反映する能力は各専門科目で授業しているにも関わらず身につけていない。さらに急性期・慢性期の患者のアセスメントや社会資源の活用でも自信が持てない状況である。それぞれの科目において必要な内容は保持しているはずなので、比例しない理由を分析して改善する必要がある。

2. 保健師教育課程と重複する地域看護学分野において自信が持てない現状がある。本調査での分析では言及できないが、保健師国家試験での合格率の低さとも関連があるかも知れない。

3. チーム医療に関しては72.1%が「まあ・自信がある」と回答している。新カリより授業科目数や内容は少ない割に一定の効果が現れている。連携教育(チーム医療)を本学の理念として日常的に認識させるような活動が結実している可能性が高い。

4. 本調査は看護学科開設時のカリキュラムであり、評価ができていないうちに指定規則が変更になり現3年生以後は新カリキュラムを実施している。さらに24年にも改正されることが決定した。学士課程における看護学教育の質保証が叫ばれている現在、早急にカリキュラムを評価し、必要な見直しを行い、改善することが求められている。本研究では、その実態を把握する一助となった。

【結論】

ヒューマンケアの基盤能力はある程度身についたが、学士課程修了者として満足のいくレベルには到達していないことが明らかになった。

【文献】

- 1. 文部科学省:「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会報告書」,平成23年3月
- 2. 日本看護系大学協議会:看護学教育Ⅲ-看護実践能力の育成,日本看護協会出版会,2008.